

教育研究業績

芸術学部芸術学科デザイン領域

氏名	西村 和泉	職名	准教授
教育活動	[学部] デザイン基礎演習, 文芸実技I, 文芸実技II, フランス語I, フランス語II, フランス語III, 日本語表現, レビューI, レビューII		
学位	博士(文学)(パリ第8大学)		
学歴	平成9年3月 青山学院大学文学部フランス文学科 卒業 平成9年4月 名古屋大学大学院文学研究科仏文学専攻博士前期課程 入学 平成11年4月 名古屋大学大学院国際言語文化研究科国際多元文化専攻博士前期課程へ転入学 平成13年3月 名古屋大学大学院国際言語文化研究科国際多元文化専攻博士前期課程 修了 平成13年4月 名古屋大学大学院国際言語文化研究科国際多元文化専攻博士後期課程 入学 平成13年10月 パリ第8大学大学院文学研究科仏文学専攻博士課程 入学 平成16年3月 名古屋大学国際言語文化研究科国際多元文化専攻博士後期課程 満期退学 平成18年6月 パリ第8大学大学院文学研究科仏文学専攻博士課程 修了		
職歴	平成19年4月 名古屋芸術大学美術学部教養部会 講師(平成27年3月まで) 平成27年4月 名古屋芸術大学美術学部教養部会 准教授(平成29年3月まで) 平成29年4月 名古屋芸術大学芸術学部デザイン領域 文芸・ライティングコース 准教授 (現在に至る)		
専門分野	20世紀フランス文学・演劇		
研究課題	主に現代ヨーロッパの文学と演劇の研究を行っている。サミュエル・ベケットの小説・戯曲・詩・映画の分析を通して、特定の言語や宗教や思想にとらわれない創作が生み出す効果について考えている。また、日仏の現代小説の比較分析、ならびにメルロ＝ポンティ、フィリップ・ガレル、コンテンポラリーサーカスにおける「身体」の考察を研究課題としている。		
	[著書] ・「サミュエル・ベケット！—これからの批評」(共著)水声社(平成24年3月) ・「ベケットを見る八つの方法—批評のボーダレス」(共著)水声社(平成24年9月) ・「サミュエル・ベケットと批評の遠近法」(共著)未知谷(平成28年11月) [翻訳書] ・アラン・バディウ「ベケット—果てしなき欲望」(単訳)水声社(平成20年12月) ・ミシェル・フーコー「レイモン・アロンとの対話」(単訳)水声社(平成25年6月) ・マウロ・カルポーネ「イマージュの肉—絵画と映画のあいだのメルロ＝ポンティ」(単訳) 水声社(平成29年12月) ・サミュエル・ベケット「ベケット戯曲全集2 ハツヒーアイス・実験演劇集」(共訳)白水社(平成30年9月) [学術論文] ・「反—伝達としての対話—ベケットのレクリチュールをめぐる」(単著)『水声通信』第22号 水声社(平成20年2月) ・「ヌーヴォー・シルクにおける身体表現の可能性—「白面の道化」の考察を中心に—」(単著) 名古屋芸術大学研究紀要第29巻(平成20年3月) ・「Mercier et Camier de Samuel Beckett: Absence / Ubiquité des sujets dans le microcosme」 (単著)「多元文化」第8号 名古屋大学国際言語文化研究科(平成20年3月) ・「Lumière sans source et ondoyante dans l'œuvre de Samuel Beckett」(単著)「演劇映像学2007」 第2集 早稲田大学グローバルCOEプログラム(平成20年3月) ・「TAS DE PIERRES: Analyse des écrits fragmentaires dans l'œuvre de Samuel Beckett (I)」(単著) 「Autres」創刊号 名古屋大学国際言語文化研究科(平成20年3月)		

- ・「Les points de vue de Sirius dans L'innommable et Textes pour rien」(単著)
Samuel Beckett Today Aujourd'hui No. 19、Rodopi(オランダ)(平成20年6月)
- ・「サミュエル・ベケット『事の次第』におけるコクーニングとポリフォニー」(単著)
「演劇映像学2008」第2集 早稲田大学グローバルCOEプログラム(平成21年3月)
- ・「LUTTE / CARNAVAL: Murphy et Watt de Samuel Beckett」(単著)
「名古屋芸術大学研究紀要第30巻(平成21年3月)
- ・「TAS DE PIERRES: Analyse des écrits fragmentaires dans l'œuvre de Samuel Beckett (II)」
(単著)「Autres」第2号 名古屋大学国際言語文化研究科(平成21年3月)
- ・「Lien à faire / Corde à (dé)tendre: Réflexion sur l'évolution des textes En attendant Godot de Samuel Beckett」(単著) 名古屋芸術大学研究紀要第33巻 (平成24年3月)
- ・「ベケットと共生—「きれはし」がつむぐ世界」(単著)「サミュエル・ベケット—ドアはわからないくらいに開いている」早稲田大学坪内博士記念演劇博物館(平成26年8月)
- ・「拾われたイメージの鼓動—アニエス・ヴァルダの自画像とシネエクリチュール」(単著)
「映像」第1号(平成27年4月)
- ・「座る女・歩く男—ガレル、ベケット、コピの創作における「部分」の役割」(単著)
「映像」第2号(平成28年1月)

[書評・解説]

- ・「存在の謎をめぐる複眼的思索の軌跡—国内外の作家との出会いが生み出す、新しいベケットの世界」(単著)(田尻芳樹著『ベケットとその仲間たち』書評)「図書新聞」2955号4面(平成22年)
- ・「草稿から読み解く『ゴドー』」(単著)「ベケット戯曲全集1 ゴドーを待ちながら／エンドゲーム」白水社 (平成30年3月)

[学会発表]

- ・「ヌーヴォー・シルクにおける表現の可能性—「白面の道化」の考察をめぐって」テキスト研究学会 第7回大会 青山学院大学(平成19年8月24日)
- ・「Lien à faire / Corde à (dé)tendre: Réflexion sur l'évolution des textes En attendant Godot de Samuel Beckett」第36回日本サミュエル・ベケット研究会 青山学院大学(平成22年12月11日)
- ・「Le polyrythme cyclique dans Comment c'est et Quad de Samuel Beckett」Le 5ème colloque international du Centre Interdisciplinaire de Poétique Appliquée (CIPA), «Boucle et répétition: musique, littérature, arts visuels» リエージュ大学(ベルギー)(平成23年3月4日)
- ・「À la recherche du Maternel absent dans Molloy de Beckett et L'Étranger de Camus」
Séminaire Samuel Beckett et la culture française
(主催: 日本学術振興会、フランス語系サミュエル・ベケットセミナー、ヤン・メヴェル東北大学准教授) 東北大学東京キャンパス(平成26年1月18日)

所属学会 団体等	日本フランス語フランス文学会, 日本映像学会, 日本サミュエル・ベケット研究会
社会的活動	日本サミュエル・ベケット研究会幹事(平成27年から現在に至る) 日本フランス語フランス文学会編集委員(平成29年から現在に至る)
その他	特になし